

SGH推進委員会 課題研究班 平成27年度重点目標											
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない 達成度 [4]75～100% (ほとんど) [3]50～74% (まあまあ) [2]25～49% (もうすこし) [1]0～24% (わずか)	項目43		<目標> ① 構想調書(文部科学省申請書類)を踏まえた課題の実践的研究(ALの実施等も含む)。 <計画> ① 構想調書の課題研究の部分を、ONフロンティアプロジェクトの取り組みを通じて推進していく。								
	項目45		<目標> ② 国際理解教育を推進していくための準備を行う。 <計画> ② 本校の学校行事や教科等に国際理解教育の内容を盛り込めるよう準備を進めていく。								
	項目47		<目標> ③ フィールドワーク、Global Issue Studiesの授業内容の検討・実践及び教材開発。 <計画> ③ Global Issue Studiesの外部講師の授業やワークショップ型の授業実践を通じて、アクティブラーニングの授業を研究していく。フィールドワークの教材開発を行う。								
	項目49		<目標> ④ グローバルキャリアセミナーの内容検討。 <計画> ④ グローバルキャリアセミナーを実施し、国際理解教育を全校的に進めていく。								
			項目43		項目45		項目47		項目49		
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度		
部署コード/平均		4.0	3.7	3.8	3.0	4.0	3.0	3.5	3.0		
5	a	4	4	4	3	4	4	4	4		
13	a	5	4	4	4	4	4	4	4		
16	a	4	4	4	4	#	#	#	#		
49	a	4	4	3	3	4	3	3	3		
54	a	4	4	#	#	#	#	#	#		
55	a	4	4	#	#	#	#	#	#		
70	a	3	2	4	1	4	1	3	1		
<取組状況、次年度への課題など> タイでの連携先とは今後の取り組みについての地盤を固めることが出来た。チェンマイのフィールドワークで、現地の高校生や地域の人々との交流を通して、地域の課題を考えることが出来たことが大きな収穫であった。今後の課題は、批判的思考力や自らの考えを効果的に伝達する力をつけさせるような授業を更に実施して生徒の能力を高めていくことである。また、今年度は企業や大学と連携しグローバルキャリアセミナーを年5回ほど実施した。今後は学校行事等にグローバル教育の内容を盛り込んでいく予定である。											

SGH推進委員会 探求型学習の研究班 平成27年度重点目標												
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない 達成度 [4]75～100% (ほとんど) [3]50～74% (まあまあ) [2]25～49% (もうすこし) [1]0～24% (わずか)	項目43		<目標> 他校事例を踏まえたAL等の授業研究を行い、研究成果の発表・実践することで、全校への普及を図る。 <計画> ① 先進的な学校への視察 ② 視察結果の全校への紹介 ③ 年度中間期での視察結果発表 ④ 研究授業の実施／成果の普及 ⑤ 年度末での検証／次年度以降の継続的なサポート体制の構築									
	項目43											
	重要度	達成度										
部署コード／平均	3.9	3.0										
9	b	4	3									
15	b	4	3									
39	b	4	4									
48	b	4	4									
53	b	4	3									
63	b	4	3									
67	b	3	1									
<取組状況、次年度への課題など> ①②③玉川学園、広尾学園、桐蔭学園の研究会あるいは授業見学をした。また各種研修にてALの手法について研究した。しかしながら全校教員への周知・発表については不十分であった。来年度は授業方法についても全校的な周知に努めたい。 ④教員研修および授業参観、その振り返りを各教科・各学年道徳において実施した。ALをそれぞれ授業に取りいれている教員が少しずつ増えてきている印象にある。 ⑤今年度末に教科にALの手法を落とし込むことを目的に、産業能率大学教授の小林昭文氏の教職員研修を実施する。その後、来年度も全校的にALの手法を全校的に普及させるために、継続して教員研修を実施する予定である。												

SGH推進委員会 外国語能力向上の研究班 平成27年度重点目標

重要度
[4]大変に重要
[3]やや重要
[2]あまり重要でない
[1]重要でない

達成度
[4]75～100%
(ほとんど)
[3]50～74%
(まあまあ)
[2]25～49%
(もうすこし)
[1]0～24%
(わずか)

項目43

<目標>平成27年度SGHアソシエイト校として、外国語能力の向上について以下の目標を置く

- ・ 生徒の4技能・総合的な英語力指標として、CEFRのB1レベルを目指して指導する。
- ・ SGHアソシエイト校としての中長期目標を、英語では、平成31年度までに、SGH対象生徒は全員、TOEFL iBTでは57点、TOEICでは750点以上を、SGH対象の上位20%の生徒については、TOEFL iBTで80点以上取得することとする。
- ・ 平成27年度については、TOEFL ITPを活用し、そのスコアを検証し、受験者数を40名以上、CEFRのB1レベルの生徒の数、30名以上を目標とする。
- ・ SGHアソシエイト校として、フランス語における中長期目標は、平成31年度までに、高校卒業時の仏検3級以上の人数を30名程度にする。また仏検準2級以上を10名程度にする。
- ・ 平成27年度については、仏検3級以上取得生徒数、10名を目標とする。
- ・ SGH構想におけるlanguages プログラムを平成28年度教育課程の中で実施できるように、学校設定科目およびそのカリキュラムの研究を進める。

<計画>

- ・ 学校として団体受験できるTOEFL ITPを利用して進めていく。8月下旬を受験日として、年に1回、SGH対象生徒は、原則、全員受験する。なお、これ以外に、TOEFL iBTやIELTSの受験なども奨励し、そのスコアを学校全体で共有検証する。また、このプログラムであるプレゼンテーション、エッセイ、論文なども精査し、検証、評価を行うものとする。特に、外国語発表会などでプロダクトを提示する。
- ・ 以下の学校、大学などと連携して、その学校に生徒が行ってのセッションやその学生を本校に招いての交流プログラムを実施し、外国語でのコミュニケーション意欲を高め、学習へのインセンティブとする。
国内の大学：東京外国語大学、早稲田大学ICC（学生、留学生とのセッションや教員の指導など）
海外の大学：University of St. Joseph(アメリカ・コネティカット州・ハートフォード)
中等学校：St. Andrew's Catholic College(オーストラリア・クィーンズランド州)
New Plymouth Girls' High School(ニュージーランド・ニュー・プリマス)
- ・ コリブリ・フランス留学での留学生との交流、キャンパス・フランスとの連携プログラム、EUやフランス語圏の国の大使館などとも積極的に連携プログラムの実施を検討していく。
- ・ SGH構想で求められている4技能のバランスのとれた外国語能力の向上のため、教育課程内の取り組み、課外での取り組みを開発、実施とその成果普及を行う。

		項目43									
		重要度	達成度								
部署コード/平均		3.8	3.0								
2	c	4	2								
6	c	4	3								
19	c	4	3								
24	c	4	4								
28	c	4	3								
36	c	4	3								
47	c	4	3								
59	c	3	2								
65	c	3	3								
69	c	4	4								

<取組状況、次年度への課題など>

本校は英語による課題研究に必要な英語力指標として、TOEFL iBTを指標とするが、2015年度は校内実施可能なTOEFL ITPを課題研究プログラム対象生徒に中心に受験させ、検証した。その結果は以下の通りである。

TOEFL ITP 12月 校内実施 受験者数 51名 受験者平均スコア 497.4 → TOEFL iBT 換算スコア 60
TOEFL iBT 換算スコア 60以上の割合 全体の43% TOEFL iBT 換算スコア 79 以上の割合 全体の18%

このスコア検証から、受験者は51名と目標数よりも多くの生徒が受験した。また、CEFR B1レベルの生徒の数においては、おおよそ30人以上となり目標をクリアすることができた。

また、英語力の大きな向上につながる海外短期留学、長期留学の定量的な結果は以下の通りである。

中2カナダ体験学習 約90名が参加。中3 New Zealand / New Plymouth GHS 短期留学 10名参加実施、高1,2 Australia / St. Andrew's 短期留学 27名参加高1,2 America / University of Saint Joseph 短期研修 7名参加、ターム留学は、6名参加、年間留学 4名参加となり、留学生徒の数の点でも前年よりも相当数の増加がみられた。

フランスの高校との交換留学において、参加する生徒が今年度はいなかったのが課題となった。

留学生とのセッションは、9月の文化祭において早稲田大学WISHとの協働により、早稲田大学への留学生との英語、中国語、韓国語のセッションを実施することができた。

SGH構想における外国語教育のプログラム開発については、詳細な外国語学習シラバスを作成し、それを次年度以降実施をしていく。

SGH推進委員会 ICT活用の研究班 平成27年度重点目標

重要度
[4]大変に重要
[3]やや重要
[2]あまり重要でない
[1]重要でない

達成度
[4]75～100%
(ほとんど)
[3]50～74%
(まあまあ)
[2]25～49%
(もうすこし)
[1]0～24%
(わずか)

項目43	<目標> ① タブレットの円滑な導入を行う <計画> ①・ 先進校の事例や授業の研究を行い、全校で共有できるようにする。 ・ ロイロノート等のポータルアプリの習得と研修会の実施を行う。 ・ タブレットの管理方法・全面実施の準備・ルールづくりを行う。
項目45	<目標> ② 電子黒板の発展的な活用を全校に促す <計画> ②・ 他の部署とも連携しながら、全校一斉テストなど新しい電子黒板の活用方法の提案を行う。 ・ 電子黒板の周辺機器や電子ペン等の管理方法など改善できるものについては検討を行う。
項目47	<目標> ③ 情報モラル教育カリキュラムの検討および指導案作成 <計画> ③ 携帯電話、スマートフォン、タブレット端末の使用にあたり、生徒部とも連携をとりながら、生徒用ガイドライン等の検討を行う。

	項目43		項目45		項目47							
	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度						
部署コード／平均	4.0	3.0	3.7	2.3	3.5	1.8						
10	d	4	3	4	3	4	2					
26	d	4	4	3	2	3	2					
41	d	4	2	4	1	4	2					
42	d	4	3	4	2	3	1					
44	d	4	2	4	3	3	2					
45	d	4	4	3	3	4	2					

<取組状況、次年度への課題など>
 平成28年度からの一人1台タブレット環境の導入が決定したことにより、【項目43】を重点的に取り組む形となった。研修会への参加、教員研修会の実施などに対しては概ね実施できたので、今後は実際の運用を各先生が出来る形に持っていくことが課題となる。次年度に向けてはその点を継続して取り組んでいきたい。
 また、【項目45】に関して、妻中検定の電子黒板による実施などの案はあったが、妻中検定自体の見直しなども重なったため、十分取り組むことはできなかった。しかし、28年度からはタブレットを用いた小テスト実施なども積極的に行っていく予定のため、企画室と連携を取りながら次年度に重点的に取り組んでいく予定である。
 最後に【項目47】に関して。情報モラルに関しては、委員会としては十分取り組めなかった点が多い。ただ、重要度が下がっているのは、この問題自体が、情報の授業で取り扱われるべきものなのか、道徳・LHRの範疇なのか明確でない部分も理由のひとつである。ルール作りをどこが行うかという問題もあるため、今後はどの部署で扱うかも含め考える必要があるだろう。